

北村兼子氏関係資料の寄託について

年史編纂室

平成二十五年（二〇一三）九月、年史編纂室では、北村兼子氏の関係者の方から、北村兼子氏関係資料二八五点の寄託を受けた。

北村兼子は、明治三十六年（一九〇三）十一月二十六日大阪に生まれた（写真1）。大正十二年（一九二三）、関西大学で初めて開講された男女共学の夏期語学講習会に参加。同年十月、関西大学法文学部法律学科に入学した。当時はまだ正式に女子学生の入学が認められなかったため、聴講生としての入学ではあったが、本学で最初の女子学生となった（写真2）。

大学在学中の大正十四年（一九二五）に大阪朝日新聞社の試用社員となり、大正十五年（一九二六）、法律学科



写真1 北村兼子（大阪朝日新聞記者時代）



写真2 関西大学での受講風景

全科目の聴講修了後、正社員となる。その後、文筆活動に専念するため、昭和二年（一九二七）に大阪朝日新聞社を退社した。

昭和三年（一九二八）、ホノルルで開催された汎太平洋婦人会議に日本の政治部委員として参加、翌昭和四年（一九二九）にはベルリンで開かれた万国婦人参政権大会に日本代表として出席。ドイツ語で「日本における婦人運動と婦人公民法案の否決」という演説を行った。

昭和五年（一九三〇）、立川（東京都立川市）にあった日本飛行学校に入学し、飛行機の操縦術を学ぶ。昭和六年（一九三一）七月二十六日、訪欧飛行を目前にしながら、腹膜炎にて逝去。享年二十七歳であった。

寄託資料の概要

今回寄託を受けた資料は、北村兼子の学問や記者活動に関する資料である。大きく次の五つに分類できたので、それぞれ概要を記しておく。

証書

講義ノート

写真・アルバム・絵葉書

絵画・物品

著作・雑誌

北村兼子の著作と、北村兼子執筆の記事が掲載された雑誌である。著作としては『ひげ』『竿頭の蛇』『婦人記者廃業記』『女浪人行進曲』『恋の潜航』『情熱的論理』『私の政治観』『表皮は動く』『新台湾行進曲』『地球一蹴』『子は宝なりや』がある。記事掲載雑誌は『愛国新婦人』『映画時代』『改造』『婦人春秋』『法律春秋』など全部で五十種類一三六点ある。

証書

学業関係の証書や、高等文官試験関係資料、飛行協会会員証、パスポートなどである。学業関係では大阪市中之島尋常小学校、梅田高等女学校の修了証書や卒業証書、関西大学夏期語学講習会修了証書、関西大学法文学

部法律学科聴講修了証（写真3）などがある。

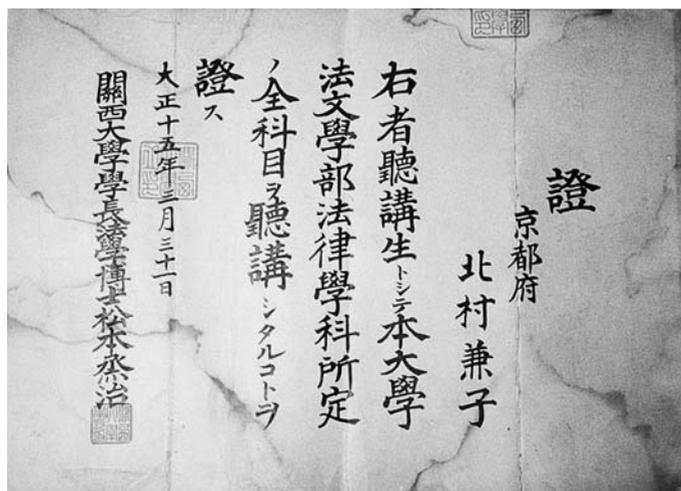


写真3 北村兼子の聴講修了証

講義ノート

関西大学をはじめ、大阪外国語学校や中之島尋常小学校の講義ノートが含まれる。

写真・アルバム・絵葉書

汎太平洋婦人会議、万国婦人参政権大会ほか、様々な集合写真や北村の演説風景、北村兼子自身の葬儀写真などがある。

絵画・物品

北村の著書装丁の原画である藤田嗣治の絵画、張学良銘の葉巻、渡欧時のサイン帳、短歌短冊などがある。

北村兼子は、本学最初の女子学生というだけでなく、世界を舞台に活躍した傑出した人物であった。寄託いただいた資料は、調査研究や年史資料展示室での展示で活用し、北村兼子の存在をさらに多くの人々に知ってもらえるよう努めたい。

(年史編纂室)